

## 場合の数

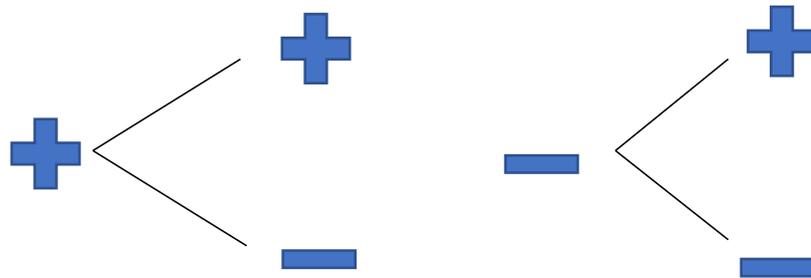
何通りか数えるときは、漏れなく、重複（ダブリ）なく数えることがとても重要になります。そのため、適切な表などを使いましょう。

例) 1円玉と5円玉を投げた時、表が出るか裏が出るかの表を漏れなくダブリなく数えてみましょう。

1円玉	表	表	裏	裏
5円玉	表	裏	表	裏

と、4通りあります。

もう一つの方法、樹形図を使って表現してみましょう！



プラスで表、マイナスで裏を表現しています。

確かに4通りありますね。樹形図は、漏れなくダブリなく数えるのにとっても向いているので、ぜひマスターしてくださいね。